

巻頭言

「創めることさえ忘れなければ老いることはない」

株式会社アクティブ
代表取締役

嶽 正幸 CVS



私事で恐縮ですが、後数年で古希を迎える年齢になり、最近講演会などで「たった一度の人生、どう生きるかは自分次第」と題してお話をさせていただくことが多くなってきている。改めて人生を振り返ってみると製品のライフサイクルによく似ており、これは至極当然のことである。一方、VEでは横軸に期間、縦軸に効果金額を表すVE効果曲線があるが、当然のことながら反比例している。新製品の受注前段階から参入を始める0 look VE、開発段階・成長段階の1st look VE、生産・サービスが衰退期の2nd look VEに大別され、VEの効果は当然早い時期に参入した方がいい訳であるが、全ての製品でそれができる訳でもなく、結果として会社の方針にそった対応となることが多いのも事実である。

人生における問題は成長期から衰退期にかけて、どう対応していくかである。製品なら市場ニーズや新技術を駆使した新製品を開発していけばいいが、人生はそう簡単にはいかない。特に成長の段階から衰退期への移行は人生でいうと60歳を節目として「趣味に生きる余生エンジョイ派」「ボランティア活動などを行う社会貢献派」「無趣味で孤独な人生を歩む孤立無援派」「過去の経験を活かして新たに起業する独立派」など、人それぞれの生き方があるが、60歳を過ぎてもまだ十分働けるパワーを持っている方も沢山おられる時代、人生に節目などなく、自らどう生きていくかの創造的価値観を見い出していけばいいのではないかと考えている。

ただ、そのためには最低三つの必須事項があると知人に教わったことがある。①健康第一：何をしても健康を害しては元も子もなく、やりたいことが何もできないので、日々の健康管理が最も重要である。②ある程度の経済的ゆとり：先立つものがなければ自ずと行動の範囲も狭まってしまう。③現役時代の行い：現役時代にいかに良好な人間関係を構築すること

ができているかどうかであり、いままで肩書で仕事をしてきた人が退職後は、以前の仲間から声も掛からない人を見かけると確かに言い得て妙である。

そして私自身もう一つ座右の銘にしている言葉で、**「創めることさえ忘れなければ老いることはない」**がある。哲学者「マーティン・ルーバー」の言葉であるが、常に好奇心とチャレンジ精神を持ち続けていくことでその人の人生も生き方も若返っていくことであり、私はその一つの方法として、新たな趣味を持ち挑戦していくことが大切だと考えている。この意味は二つあり、1. 心と体のリフレッシュができる。今までの趣味は延長線上でしかなく深耕はできるが、広がり欠ける。新しい趣味は今までにやったことがなく、一歩前に踏み出す勇気はあるが、新たな自分の可能性を見出せ人脈も拡大し人間的幅が広がる。2. 新しいことへの挑戦、**「一歩を踏み出す勇気が新たな自分を創り出す」**。そのためには、やや独断的ではあるが、①リスクと失敗を恐れない、②他人と自分を比較しない、③誰かの許可を求めない、④自分の限界を決めない、⑤できない理由を考えず、やらず嫌いにならないことであると思っている。人生もこうして考えてみると、VEの基本理念に類似する部分かなりあるのではないかと思える。

先日、ある会社を訪問した際、壁に飾ってあった言葉で**「夢のビジネスサイクル」**が目についた。『「夢」のある者には「希望」がある、「希望」がある者には「目標」がある、「目標」がある者には「行動」がある、「行動」がある者には「実践」がある、「実践」がある者には「反省」がある、「反省」がある者には「進歩」がある、「進歩」がある者には「夢」がある。』

加齢による体力の衰えはある程度やむをえないが、気持ちだけでも「新たな夢と希望」を抱き、生きがいと挑戦心を持ち続けながら「たった一度の人生」を歩んでいきたいものである。（筆者は当会理事）